



2022年9月期 第2四半期

決算説明資料

東証グロース 証券コード：4427

株式会社 EduLab

2022年6月15日



当社は、東京証券取引所より、当社の内部管理体制等について改善の必要性が高いと認められたことから、2022年4月1日付にて、特設注意市場銘柄に指定されました。

株主や投資家の皆様をはじめとする関係者の皆様に、多大なるご迷惑とご心配をおかけしておりますことを深くお詫び申し上げます。

当社は2022年1月25日に「改善報告書」を提出し、その後、同年5月19日に「改善計画・状況報告書」を公表し、再発防止策に取り組んでおります。当社は、内部管理体制等を早急に整備し、指定の解除を受けられるよう、役職員一丸となって誠心誠意取り組んでまいります。



1. 第2四半期決算概況	3
2. 2022年9月期第2四半期実績	4
3. 事業セグメント別 実績	9
4. 2022年9月期通期見通し	18
5. 事業トピックス①	20
6. 事業トピックス②	24

1. 2022年9月期2Q決算概況

- 売上高 4,496百万円（前年同期比 3.9%増）
- EBITDA 101百万円（前年同期は△229百万円）
- 営業利益 △247百万円（前年同期は△710百万円）
- 経常利益 △115百万円（前年同期は192百万円）
- 親会社株主に帰属する四半期純利益△1,002百万円（前年同期は△66百万円）
 - EPS △100.04円
- テスト等ライセンス、教育プラットフォーム、テストセンター事業で売上が拡大し、前年比 3.9%の増収
- テストセンター事業の採算性の改善、研究開発費の減少、役員の削減等による販管費の減少等により前年同期比で損失幅は縮小したものの、前年度に続き営業損失を計上
- 前期に計上した事業損失引当金戻入額の剥落に伴い、経常損失を計上。また、減損損失等の発生により四半期純損失が前年同期比で拡大

2. 2022年9月期2Qのセグメント動向

- テスト等ライセンス事業は、売上高はほぼ前年並み。一方で、一部テストの商流変更等に伴い原価が増加し減益（前年同期比30.6%減）
- 教育プラットフォーム事業は、スタディギアのライセンス収入等が増加し増収（同12.5%増）。一方で、プラットフォームや広告等の費用増に伴い減益（同27.6%減）
- テストセンター事業は、テストセンター利用者数の増加に伴い業績は順調に推移し増収（同18.9%増）
- AI事業は、「DEEP READ」ライセンス収入は安定して推移したものの、新規のサービス提供案件の受注減により減収（同25.6%減）
- テスト運営・受託事業は、前年度受注した全国学力・学習状況調査の中学校事業の剥落により減収（同11.2%減）。また、既存案件の採算性の悪化と、利益率の低い案件の受注に伴いセグメント損失を計上



2022年9月期 第2四半期実績

損益計算書

(単位：百万円)

	21年9月期 2Q	22年9月期 2Q	対前年同期比
売上高	4,328	4,496	+ 3.9%
EBITDA	△229	101	-
EBITDA率	-	2.2%	-
営業利益	△710	△247	-
営業利益率	-	-	-
経常利益	192	△115	-
親会社株主に帰属する 四半期純利益	△66	△1,002	-

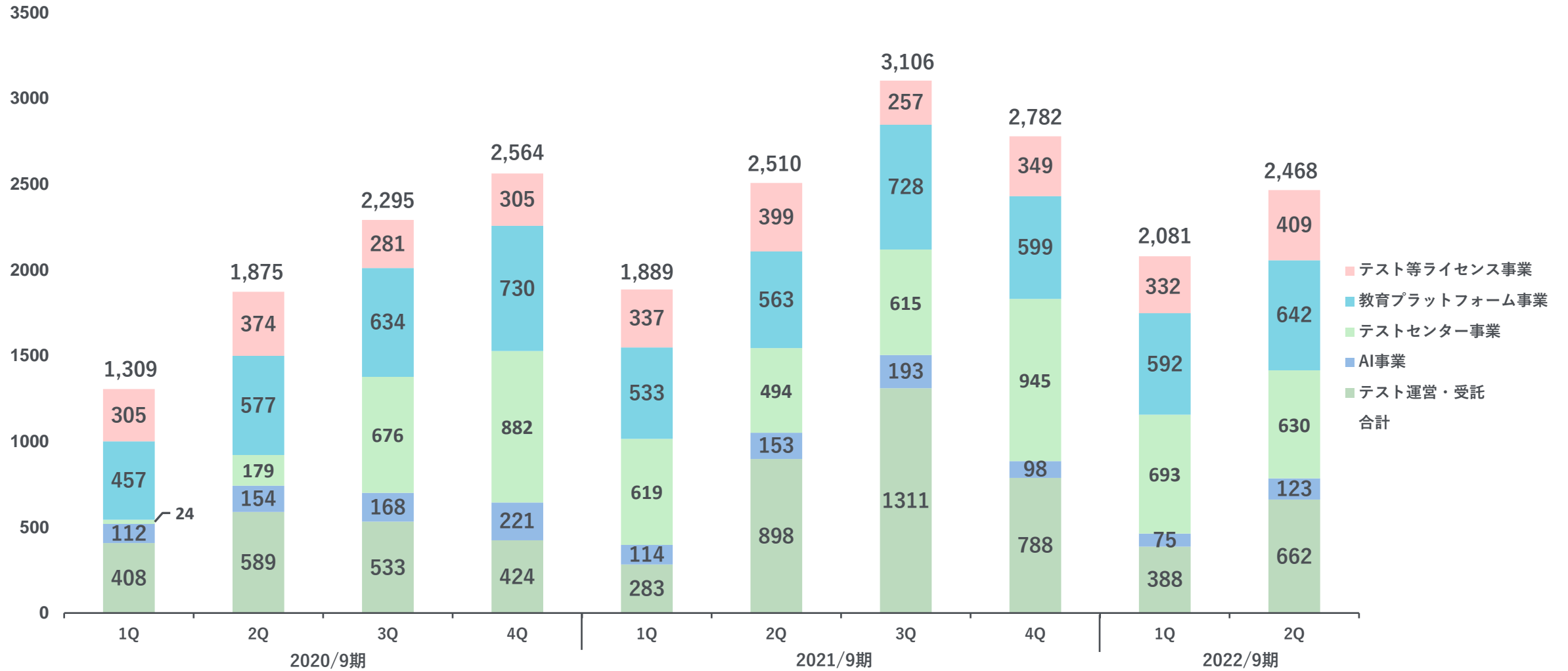
- AI事業、テスト運営・受託事業で売上が減少した一方で、テスト等ライセンス事業、教育プラットフォーム事業、テストセンター事業で売上が拡大し、**売上高は対前年同期比 3.9%増となる 44.9億円**を計上
- テストセンター事業の採算性の改善や、研究開発費の減少、役員の削減等による人件費の減少（△42百万円）等により、前年同期比で損失幅は縮小したものの、**247百万円の営業損失**を計上
- 前期に計上したテストセンター取引のロスシェアに伴う引当金取り崩しによる事業損失引当金戻入額が剥落したことにより、営業外収益が減少し、**115百万円の経常損失**を計上
- 減損損失435百万円を計上した他、投資有価証券評価損160百万円、特別調査費用引当金繰入額198百万円、上場契約違約金48百万円等の特別損失を計上
- 上記により、親会社株主に帰属する四半期純損失は前年同期比で拡大し、**1,002百万円の四半期純損失**となった

セグメント別の売上高・セグメント利益

(単位：百万円)

事業セグメント		21年9月期 2Q	22年9月期 2Q	対前年同期比
テスト等ライセンス	売上高	737	742	+ 0.7 %
	セグメント損益	330	229	△ 30.6 %
教育プラットフォーム	売上高	1,097	1,234	+ 12.5 %
	セグメント損益	463	335	△ 27.6 %
テストセンター	売上高	1,113	1,323	+ 18.9 %
	セグメント損益	△614	20	—
AI	売上高	268	199	△ 25.6 %
	セグメント損益	△ 259	△119	—
テスト運営・受託	売上高	1,182	1,050	△ 11.2 %
	セグメント損益	88	△41	—
全社費用		△718	△672	45百万円減少

(単位：百万円)



(単位：百万円)

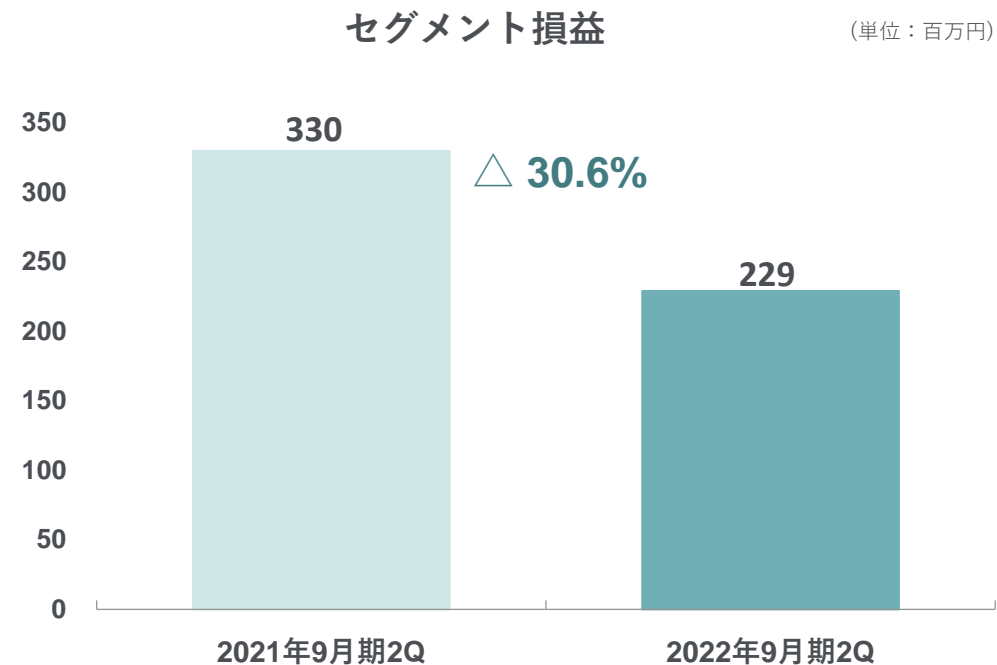
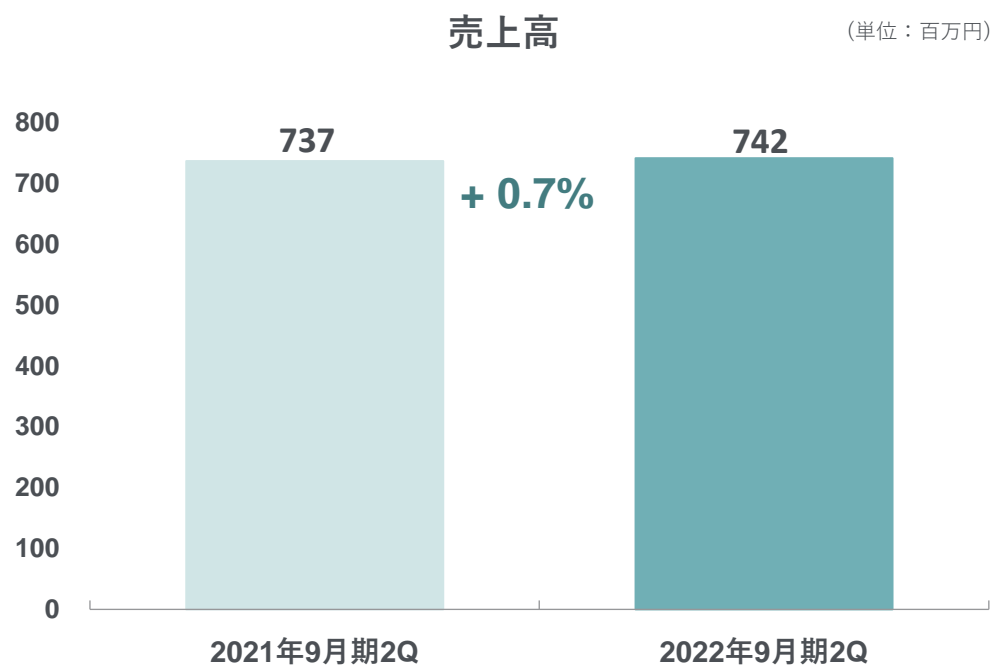
事業セグメント	2020年9月期				2021年9月期				2022年9月期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
テスト等ライセンス事業	95	167	90	90	135	195	79	175	73	156
教育プラットフォーム事業	239	320	399	436	241	222	404	246	132	203
テストセンター事業	△28	47	△215	△143	△187	△427	△18	136	91	△70
AI事業	△26	48	85	56	△235	△24	41	△122	△145	25
テスト運営・受託	△55	59	48	104	△20	108	61	△133	△61	20
全社費用	△292	△355	△225	△255	△330	△388	△298	△286	△305	△367



事業セグメント別 実績

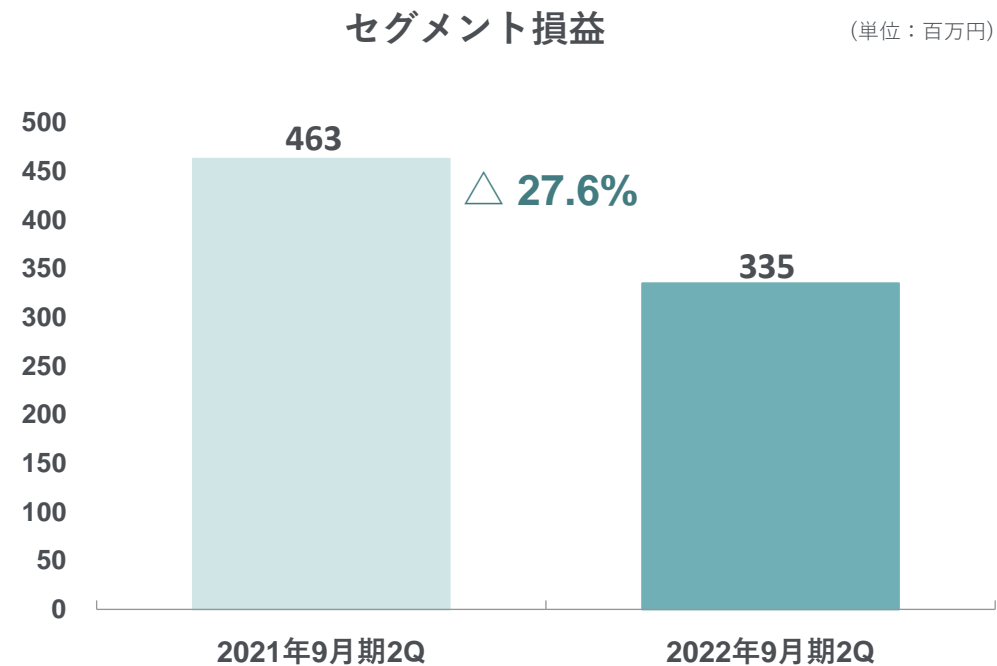
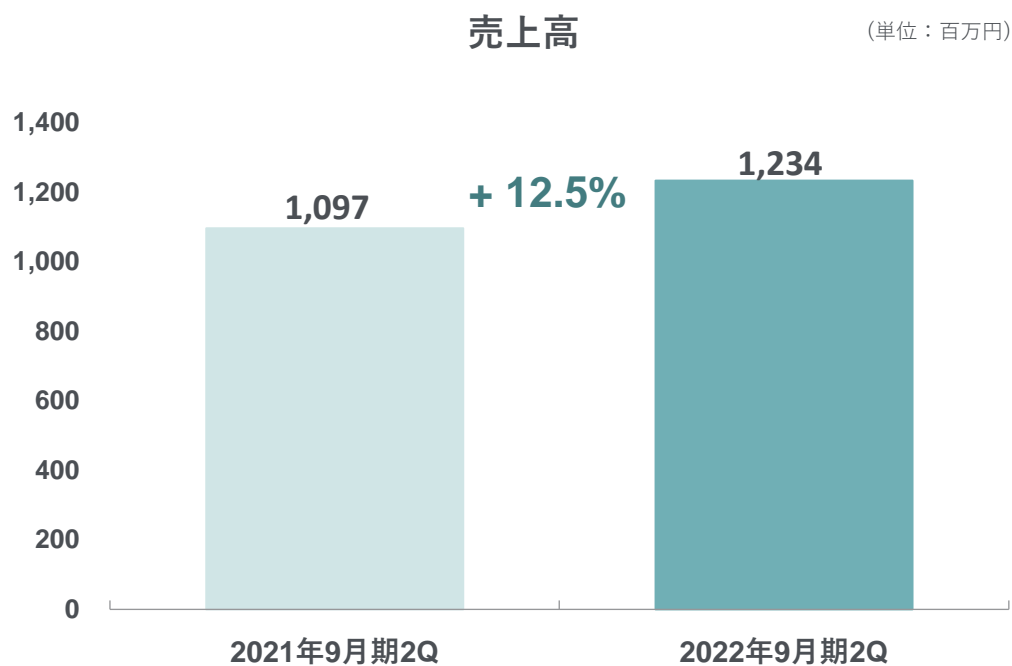
- NTTドコモに技術提供している英語4技能学習サービス「English 4skills」のライセンス収入や、「英検Jr.」の商流変更等により売上が増加
- 一方、英語能力判定テストの「CASEC」で競合商品の立ち上がりや、対面授業への回帰による需要の低下の影響を受け売上が減少し、また、「TEAP CBT」において、商流の変更に伴いテスト実施に関する固定費が増加し採算性が悪化
- 上記等の結果、**売上高**はほぼ前年並となる**742百万円**、**セグメント利益**は**前年同期比 30.6%減**となる**229百万円**

売上高・セグメント損益



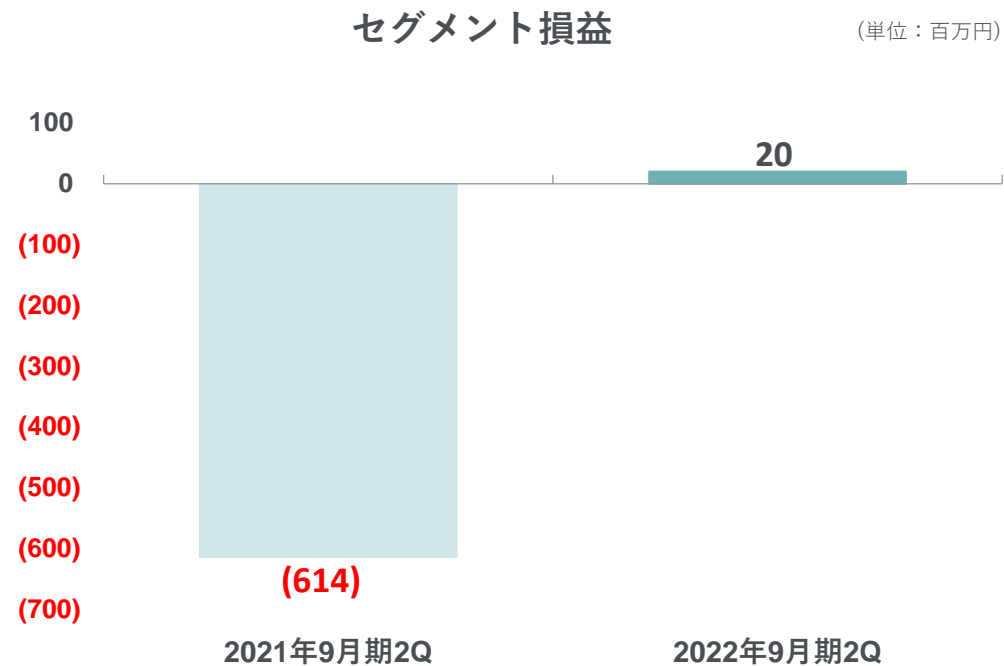
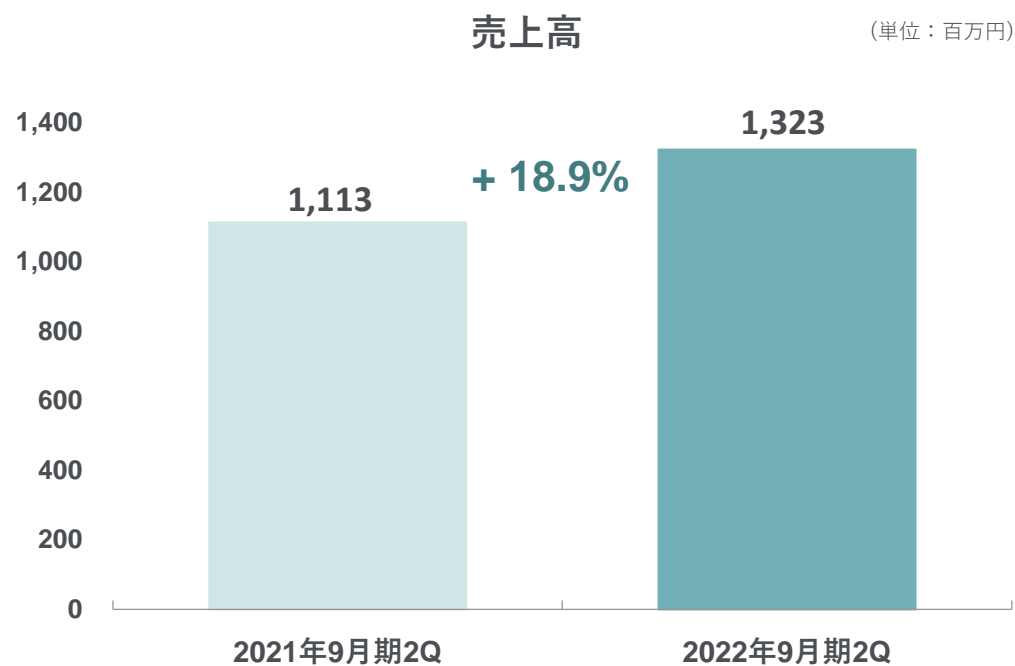
- スタディギアのライセンス収入等が対前年同期比で拡大
- 広告の収益は堅調であるものの、対前年比でほぼ横ばい
- 一方で、2021年6月末から新たに提供開始したプラットフォームや入試広報関連等の費用増に伴い利益率が悪化
- 上記等の結果、**売上高は前年同期比 12.5%増となる1,234百万円、セグメント利益は同 27.6%減となる335百万円**

売上高・セグメント損益



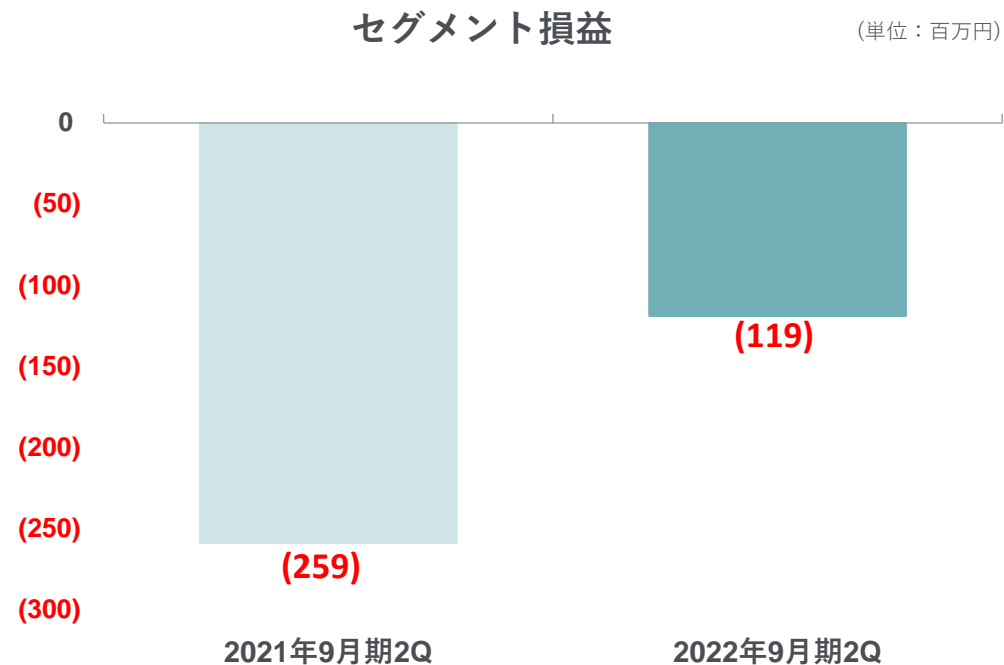
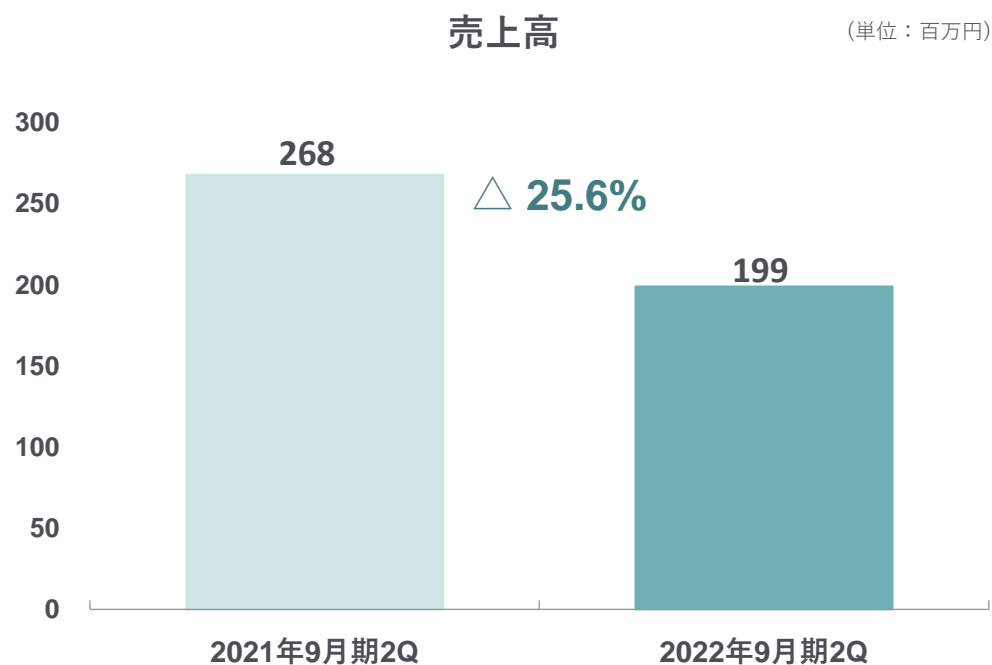
- テストセンター利用者数は英検S-CBT受験者の増加に加え、その他の資格・検定試験での活用が進み、今期2Q（2022年1月～3月）で前年同期比28.6%増加し、約17万人
- 契約の変更や減価償却費の剥落により、セグメント全体の採算性が改善
- **売上高は前年同期比 18.9%増となる1,323百万円、セグメント利益は20百万円**（前年同期はセグメント損失614百万円）

売上高・セグメント損益



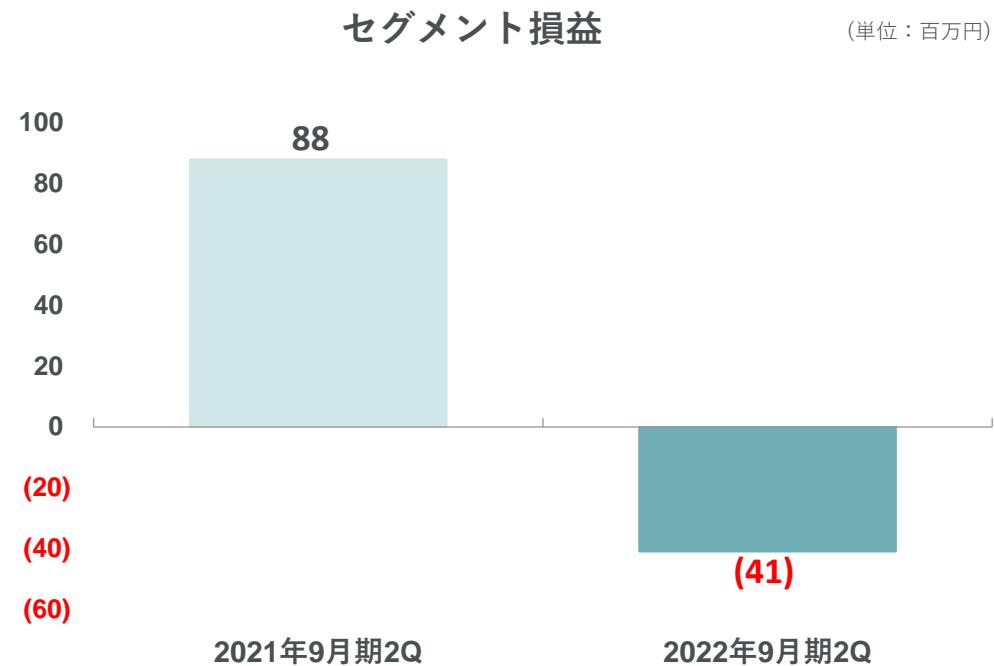
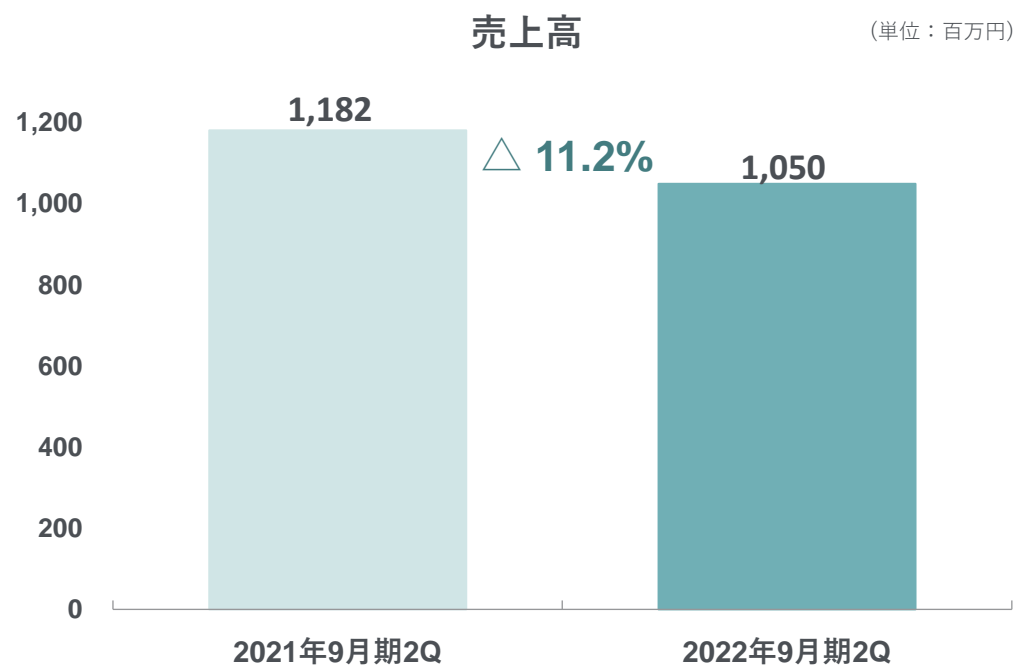
- 手書き文字認識「DEEP READ」ライセンス収入は安定して推移したものの、新規のサービス提供案件の受注減により売上が減少
- 前期末のソフトウェア資産の減損の影響で減価償却費等の費用が減少し、前年同期比でセグメント損失幅は縮小。この他に追加で特別損失としてソフトウェア資産について減損が190百万円発生
- 上記等の結果、**売上高は前年同期比 25.6%減**となる**199百万円**、**セグメント損失は119百万円**（前年同期はセグメント損失259百万円）
- 今後は事業領域の選択と集中を行うとともに、ソフトウェア開発投資を含むコストコントロールを再検討中

売上高・セグメント損益



- 大阪府の令和3年度中学生チャレンジテストを受注した一方で、前年度受注した全国学力・学習状況調査の中学校事業の剥落により減収
- 試験システムの安定稼働のための追加費用や、社内リソース不足への対策費用によりプロジェクトの採算性が悪化
- 上記の結果、**売上高は前年同期比11.2%減**となる**1,050百万円**、**セグメント損失は41百万円**（前年同期はセグメント利益88百万円）

売上高・セグメント損益



営業外損益

(単位：百万円)

	21年9月期 2Q	22年9月期 2Q	対前年増減額
営業外収益	1,153	277	△ 876
為替差益	54	68	+ 13
投資有価証券 売却益	3	183	+ 179
事業損失引当金 戻入額	1,078	—	△ 1,078
契約解約益	—	12	+ 12
その他	17	12	△ 4
営業外費用	250	145	+ 105
支払利息	21	23	△ 2
投資事業組合 管理費	70	77	△ 7
持分法による 投資損失	5	13	△ 8
市場変更費用	44	—	+ 44
その他	109	29	+ 79

- 営業外収益は、前期に計上したテストセンター事業における事業損失引当金戻入額が今期は発生しないこと等により減益
- 円安基調のため68百万円の為替差益となった
- Mentor Collective社の株式の売却等により、投資有価証券売却益183百万円を計上

	2021年 9月末	2022年 3月末	(単位：百万円) 増減額
流動資産	14,832	11,455	△ 3,377
現預金	10,698	8,412	△ 2,286
その他	4,134	3,043	△ 1,091
固定資産	4,133	3,714	△ 419
ソフトウェア	2,265	2,134	△ 130
投資その他の資産	1,410	1,163	△ 246
その他	458	416	△ 42
繰延資産	6	5	△ 1
資産 合計	18,972	15,175	△ 3,797
流動負債	8,654	6,463	△ 2,191
有利子負債	3,938	3,532	△ 405
前受金	1,174	–	△ 1,174
契約負債	–	1,102	1,102
その他	3,542	1,828	△ 1,713
固定負債	4,146	3,803	△ 343
有利子負債	4,023	3,689	△ 333
その他	123	113	△ 10
負債 計	12,801	10,266	△ 2,535
純資産 計	6,171	4,969	△ 1,201
負債純資産 合計	18,972	15,224	△ 3,748

- 流動資産は前年度末より約33億円減少
- うち現預金が約22億円減少した主な要因は、特別調査費用の支払 △19億円 等
- ソフトウェア資産の減価償却の進展及び投資その他の資産の減少等により、固定資産は約4億円減少
- 前期末時点の前受金残高は**11.7億円**、今期1Qより前受金は契約負債に含めて表示
- 流動負債のその他は特別調査費用引当金約13億円の取り崩しにより減少

キャッシュ・フローの状況

(単位：百万円)

	21年9月期 2Q	21年9月期	22年9月期 2Q
営業活動による キャッシュ・フロー	△921	△665	△584
投資活動による キャッシュ・フロー	△1,397	△3,063	△4,362
財務活動による キャッシュ・フロー	6,983	6,897	△980
四半期末(期末) 現金及び現金同等物	12,200	10,698	4,628

■ 営業活動によるキャッシュ・フローの主な内訳

- 減少要因：税金等調整前四半期純損失（△957百万円）、特別調査費用の支払額（△1,916百万円）
- 増加要因：減損損失（+435百万円）、売上債権の減少額（+328百万円）、減価償却費（+339百万円）、棚卸資産の減少額（+334百万円）、投資有価証券評価損（+160百万円）

■ 投資活動によるキャッシュ・フローの主な内訳

- 開発投資等Capexは814百万円（2022年9月期2Q実績）
- 減少要因：定期預金の預入による支出（△3,784百万円）、無形固定資産の取得による支出（△812百万円）
- 増加要因：投資有価証券の売却による収入（+245百万円）

■ 財務活動によるキャッシュ・フローの主な内訳

- 減少要因：長期借入金の返済による支出（△1,101百万円）、非支配株主への払戻による支出（△129百万円）
- 増加要因：短期借入金の純増減額（+319百万円）



2022年9月期 通期見通し

	21年9月期実績	22年9月期 2Q（実）	22年9月期通期（予）	進捗率
売上高	10,090	4,496	9,900	45.4%
営業利益	△425	△247	300	—
営業利益率	—	—	3.0%	—
経常利益	350	△115	150	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	△5,255	△1,002	△980	—

事業トピックス①

テストセンター事業

入試にも利用可能な高セキュリティのテストセンターを全国で展開、国内No.1の拠点数

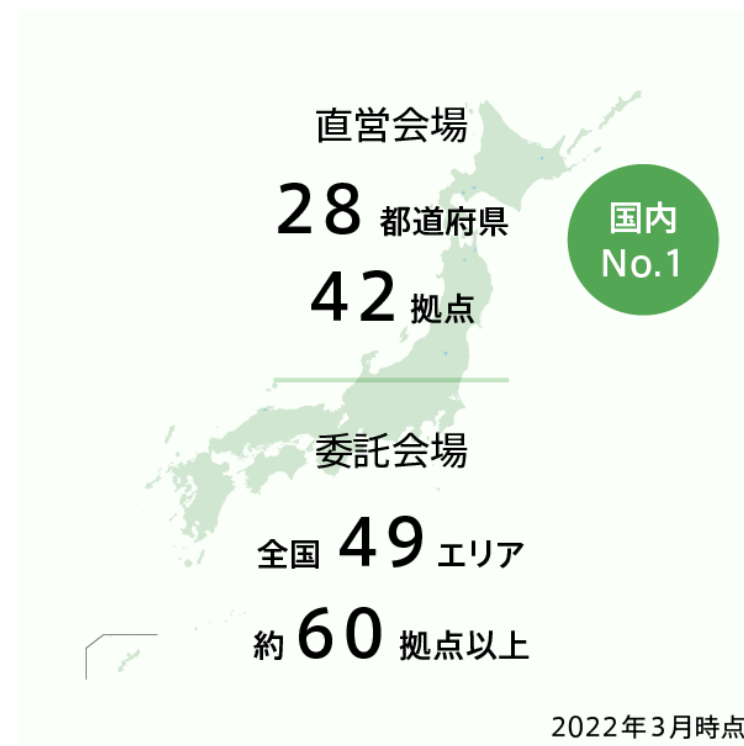
- 公平・公正な環境下でCBTの実施を可能とするテストセンターを全国に設置し、2020年6月から運営を開始
- 「英検S-CBT」をはじめ、各種資格・検定試験、大学入試などを実施・運営
- テスト理論とAIを組み合わせた独自の技術を活用することで、問題作成から試験実施、採点までを一気通貫でサポート

感染症予防策を実施

- 受付フェイスガード着用
- 受験者の体調チェック
- 受験者、機材消毒対応
- 換気対策
- 個別ブース席
(受験者間隔90cm以上)



テストセンターの内装 (新宿NSビル旗艦校)

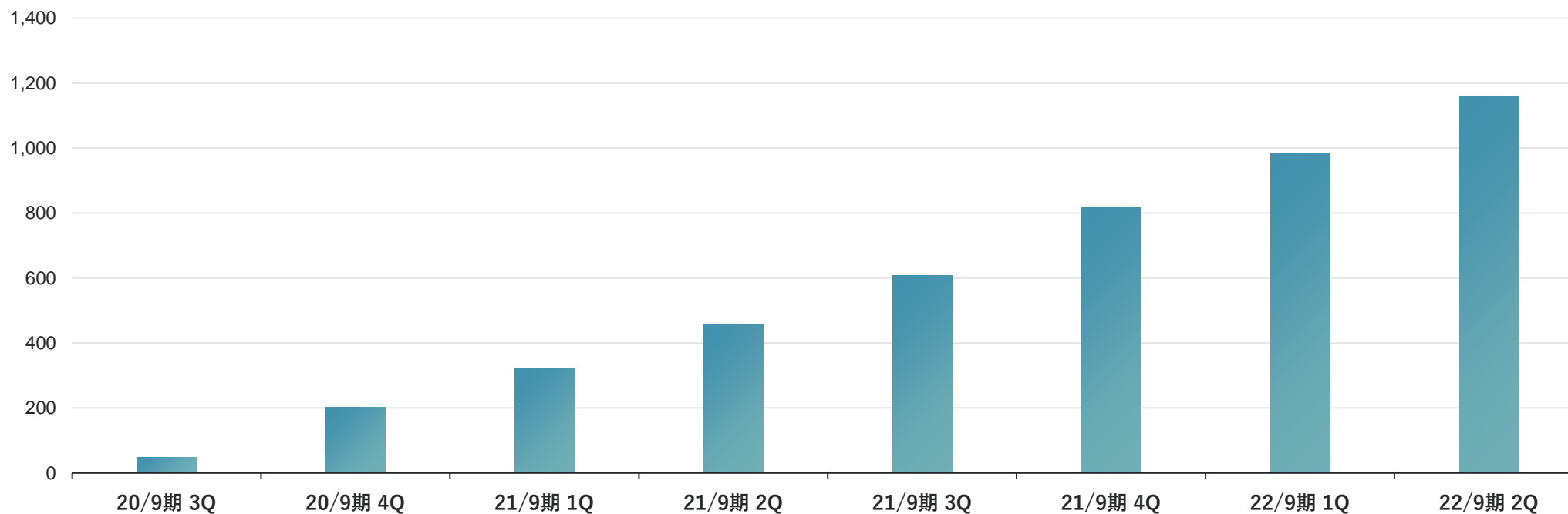


テストセンター運営実績

運用を開始した2020年6月から2022年3月末までに
累計116万人が直営テストセンターを利用

直営テストセンター利用者数推移（累計）

(単位：千人)

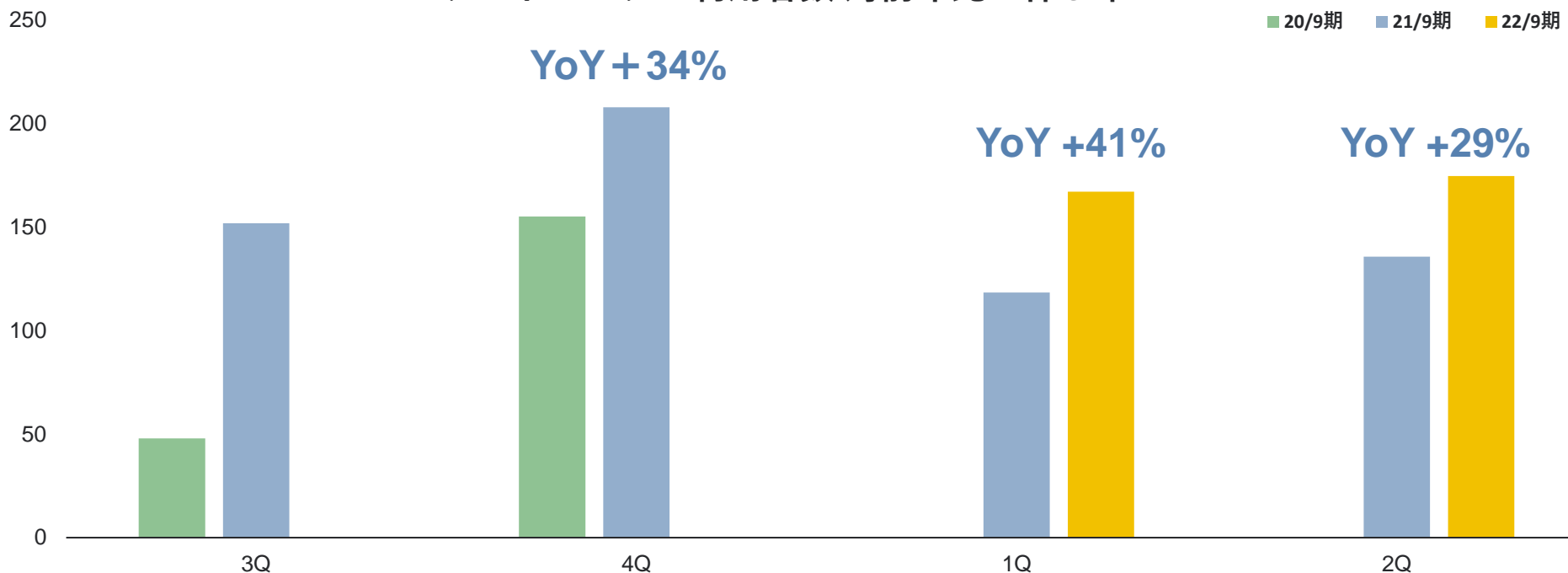


テストセンターでのCBT受験者数が増加

- 英検のCBT化は順調に推移
- テスト市場全体でCBT化が加速し、英検CBT以外の資格・検定試験での活用が増加
- 利用者数は前年同期比で約30%~40%伸長。今期中の利用者（2021/10~2022/9）は、対前年比で19%増となる約73万人を見込む

(単位：千人)

テストセンター利用者数 対前年比の伸び率



※2020年6月より運営開始しており、20/9期3Qの数値は一ヶ月のみ ※4Qは季節要因により需要増の傾向

事業トピックス②

教育プラットフォーム事業

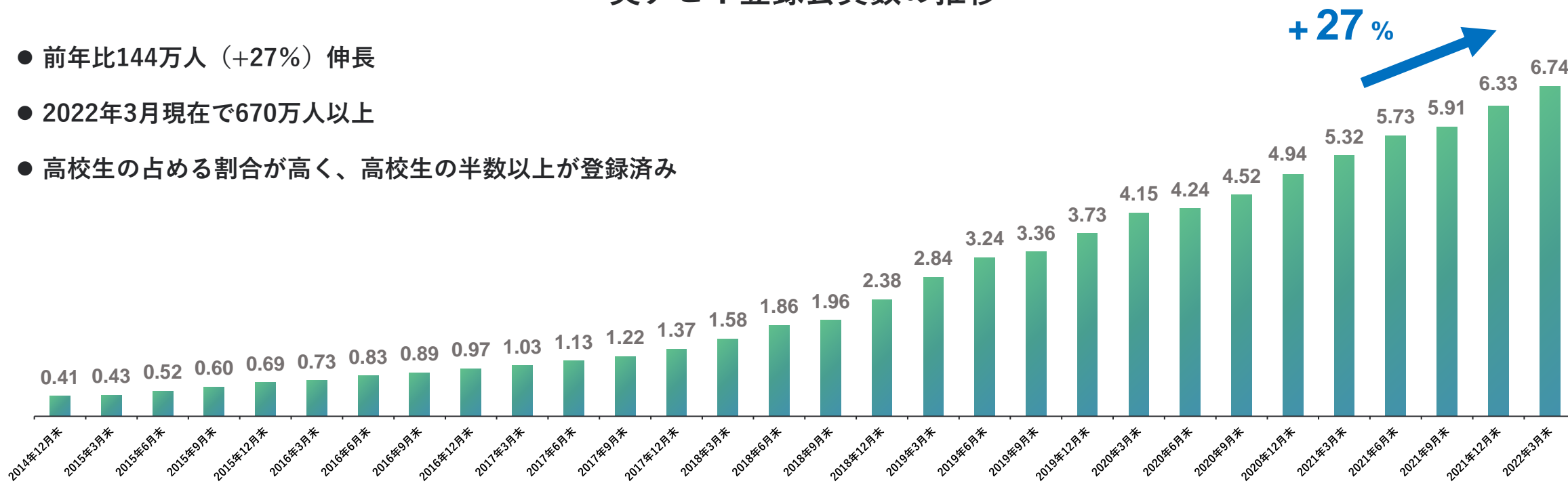
累計670万人を超える会員データベースを土台としたメディア事業および多教科サービス展開

- 「英ナビ！」登録会員をベースにした広告事業を中心としたメディアサービスの提供
- 「スタギアプラットフォーム」として「スタギア英検」「スタギア漢検」「スタギア数検」といったオンライン学習サービスの提供・運営

英ナビ！登録会員数の推移

(百万人)

- 前年比144万人 (+27%) 伸長
- 2022年3月現在で670万人以上
- 高校生の占める割合が高く、高校生の半数以上が登録済み



- 本資料は、株式会社EduLabの業績等について、株式会社EduLabによる現時点における予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来展望についても言及しております。
- これらの将来展望に関する表明の中には、様々なリスクや不確実性が内在します。既に知られたもしくは未だに知られていないリスク、不確実性その他の要因が、将来の展望に関する表明に含まれる内容と異なる結果を引き起こす可能性がございます。
- 株式会社EduLabの実際の将来における事業内容や業績等は、本資料に記載されている将来展望と異なる場合がございます。
- 本資料における将来展望に関する表明は、本資料開示時点（2022年6月15日現在）において利用可能な情報に基づいて株式会社EduLabによりなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して、将来展望に関するいかなる表明の記載も更新し、変更するものではありません。